平成15年度　全国高等学校総合体育大会
(第71回　日本高等学校選手権水泳競技大会)
水球競技速報用紙

平成　15　年　8　月　17　日
会場：長崎県：長崎西高等学校プール

ｹﾞｰﾑ№ **1**

帽子の色	白		青	帽子の色
	尼崎北高校	0 - 6	秀明英光高校	
		0 - 8		
		1 - 6		
	1	0 - 5	25	
		EX. - -		
		P.T. -		

天候：　曇り

審判1：井上　嘉隆
審判2：榎本　隆

戦　評

2003長崎インターハイ、今年の夏は全国的に雨続きで冷夏となった。各チームとも練習環境の確保やコンディションの調整に苦慮したことと思われる。被爆から58年目を迎えた長崎の町で、これまで蓄えてきたエネルギーを爆発させるときが来た。

尼北は、創立80年を迎える自由な校風の普通科高校で、野球の有力校としても有名である。水球と並び競泳も盛んで過去にはオリンピック選手も排出しており、女子の選手が同じくインターハイに参加している。全員が高校から水球を始めており、近畿ブロックを3位で通過しインターハイの切符を手に入れた。全力を尽くして一昨年の優勝校秀明に挑む！

秀明は、昭和56年創立の若い学校であるが平成元年に校名改称とともに男女共学化とし、英語教育に力を入れる一方、コンピュータや福祉のコースを新設するなどさまざまなニーズに応える教育が特色の埼玉の私学校である。関東ブロックではレギュラー2名が骨折で出場できず苦戦を強いられたが、選手層の厚さでカバーしインターハイ出場を果たした。今大会も優勝を狙っている。

秀明は立ち上がりから前評判どおりの強さを見せる。相手退水のパワープレートップから、大貫がミドルを決め本大会の初得点者となると、フロートして長沼、パワー･スピードのある大貫や浜田（慎）が次々とシュートを決め、また鈴木や石川もチャンスを的確に得点に結びつけ、2p終了までに14点を量産する。

尼北は三谷と竹本の2トップ気味の攻めでチャンスをつくろうとするが、秀明のマンツーマンディフェンスに7mFTシュートで対向するのが精一杯の状況。インターハイ初戦ということもあってか、まだしっくりとかみ合っていない様子である。

後半にはいると秀明はメンバーチェンジの余裕を見せ、若松･染谷･浜田（卓）･山口の1年生カルテットを起用する。これがまた活躍し、秀明の持ち味である多彩なバリエーションからのオフェンスで次々得点を重ねた。状況判断の良い動きはジュニアからの水球経験も生きている。

尼北も、GK坂井をフィールダーに起用するなどの補強策で対応、相手の当たりにもなれた頃、キャプテンの乃生から三谷･竹本の2トップへ供給した何本かのパスに、二人が呼応してひねり出した数少ないチャンスを活かし、竹本がゴール左すみに決めて初得点をものにした。

秀明はその後も1年生カルテットを中心に得点を重ね、GK篠崎を除く12人中10人がまんべんなく得点するという圧倒的な攻撃力を見せ勝利した。

尼北は圧倒的な秀明のパワーに屈したが、3年生を中心にベンチ･スタンドの声援に後押しされ最後まであらめずにボールを追った。2･1年生のメンバーも短い時間ではあるが全国大会の会場でプレーをし、よい経験になったと思われる。今後に期待したい。

秀明は、俄然優勝候補の筆頭に名乗り出た感がある。

記録者　南部　健

平成１５年度　全国高等学校総合体育大会
(第７１回　日本高等学校選手権水泳競技大会)
水 球 競 技 速 報 用 紙

平成　15　年　8　月　17　日
会場：長崎県：長崎西高等学校プール

ｹﾞｰﾑ№ **2**

帽子の色	白		青	帽子の色
金沢市立工業高校	0	0 - 1	長浜北星高校	7
		0 - 1		
		0 - 2		
		0 - 3		
		EX.		
		-		
		-		
		P.T.		
		-		

天候：　曇り

審判1：　小谷　正
審判2：　目等　聡

戦　評

北信越代表で22年連続、22回目の出場を果たした金沢市立工業高校と、近畿代表で5年連続、同じく22回目の出場を果たした長浜北星高校との伝統校同士の一戦。いずれも過去(H3：金沢、S56：長浜)に優勝の経験を有し、互いにこの一戦を制し、上位入賞へ向けてのさい先の良いスタートを切りたいところ。金沢市立工業は、例年と異なりフローターシステム中心ではなく、全員が動き回っての総合力で、一方の長浜北星は遅功・速攻をうまく使い分けて、相手に守りの的を絞らせない試合運びで勝負に臨みたいところ。22回目の出場校同士のこの対決、果たして勝利の女神はどちらに微笑むのか。

１P、一進一退の攻防の中、金沢はパワープレーのチャンスを得るも攻めきれず、逆に、長浜4番成田がゴール前フローティングで回し込んでのシュートを決め待望の先制点をゲット。残り45秒、パワープレーを得た金沢はすかさずタイムアウトをとりセットプレーの確認をしゴールをねらうが長浜の執拗なディフェンスにゴールを割ることができず１－０で終了。　２P、金沢は、A(右)ゾーンにボールを集めC(左)ゾーンでのクロス攻撃を生かそうと果敢に攻めるが、それを読んでの長浜のディフェンスを崩せない。一方、長浜はゴール前の成田にボールを集める。その期待に応え、ゴール前で成田が振り向きざまに2点目を決める。その後、互いにパワープレーのチャンスを得るが互いに得点につなぐことができず長浜の2点リードで前半を終了。　３P、これ以上点差を広げられたくない金沢は必死に防御するが、あせりからか退水となる。このチャンスに長浜9番中野が右ポスト前からシュートを決めリードを広げる。まずは1点を返したい金沢のCゾーンでの絶妙なクロス攻撃に長浜はたまらず退水。しかしこのチャンスも得点につなげることができない。また、金沢8番横山がカウンターのチャンスにシュートを放つが惜しくも得点とは成らず。残り2分、長浜は、7番落合のキーパーを引き寄せてのアシストパスにより5番清水(安)のゴールを演出し点差を広げる。残り18秒、金沢はパワープレー中に7番村山が力強いシュートを放つが、長浜のキーパー湯本が好セーブしゴールを死守する。　４P、1点を取りたい金沢は、カットインや多彩なクロス攻撃等、全員が積極的に攻めに転じる中、4番道坂が絶妙のカットインシュートを放つが、湯本のナイスセーブに阻まれゴールネットをゆらすことができない。長浜は、金沢の果敢な攻撃をかわしながら、成田がミドルシュートやフローティングシュートを重ね7点差と点差を開き、タイムアップを迎えた。

互いに22回目の出場校同士の戦いは、持ち味を出し切れた長浜北星に軍配が上がった。破れたとはいえ、金沢市立工業は持ち味のクロス攻撃等を生かして7つの退水を奪ったことは大変評価されるものである。しかしながら、長浜の退水ゾーンを攻めきれなかったことが金沢としては悔やまれる試合であった。

記 録 者	重枝武司

平成15年度 全国高等学校総合体育大会
(第71回 日本高等学校選手権水泳競技大会)
水球競技速報用紙

平成 15 年 8 月 17 日
会場: 長崎県:長崎西高等学校プール

ｹﾞｰﾑ№ **3**

帽子の色	白		青	帽子の色
	名古屋高校	3 - 0	青森商業高校	
	14	7 - 0	5	
		1 - 5		
		3 - 0		
		EX.		
		-		
		-		
		P.T.		
		-		

天候: 曇り

審判1: 榎本 隆
審判2: 折笠 敬一

戦 評

名古屋は1886年創立、「敬神愛人」の校訓の元、スポーツと勉強をとおして「紳士を育てる」がモットーの愛知県屈指の男子校である。他の運動部活動も優秀で、昨年のインターハイには陸上・テニス・バスケ・競泳などで愛知県下最多の69名を送り込み、特にテニスは2年連続団体優勝を果たしている。チームのカラーとしては、「泳いで攻め、泳いで守る」相手チームよりたくさん泳ぎ、つねに攻めの気持ちでプレイすることを心がけている。

青商は2年後に100周年を迎える東北の伝統校である。創部79年を誇る水泳部は、あすなろ(青森)国体から水球が始まった。今年は冷夏のせいでプールの水温が23度から上がらずということで、十分な準備が出来たか不安なところである。

両チームとも昨今の部活離れスポーツ離れの社会現象に、部員の確保には苦労しているようで、少ない人数でそれぞれの選手達のモチベーションをキープするのには、大変な苦労があると思われる。

チームカラー通りの”泳ぐ”水球に徹した名古屋は、パスアンドゴーでチャンスメイク、若林のカウンターノーマークを活かし梅田が先取点を奪うと、相手退水の好機を脇田が、また1p終了間際にもシュートを決めて3点リードとする。

青商は相手の早い動きにとまどい、ディフェンスが後手に回るケースが増え退水も犯す結果となった。それでも、一戸がコントロールし、秋田谷がシュートするパターンが出来ており、シュートが枠に飛んでいない結果が点差に現れた。

リズムに乗る名古屋は2pにも相手退水のチャンスなどを生かし、梅田・若林・神谷・後藤・脇田・矢野とレギュラー陣が得点を重ね10点のリードを得る。これでセイフティーリードと思われた。

青商は相手退水のチャンスや一戸のセンスのいいシュートが出るものの、得点できないジレンマに陥り、逆に退水を連発、相手に加点のチャンスを与えてしまう。しかし、3pに入って気を取り直した青商は6'00"に放った一戸の見事なワンタッチミドルがゴールに突き刺さると元気を取り戻し、相手退水時などに秋田谷・船橋が得点、28"には秋田谷がゴール前できれいにタップを合わせ、3"にもPTを一戸が決めて11－5と6点差に迫った。

名古屋は青商の反撃に一時は退水を連鎖的に犯し、若林・矢野が3回のパーソナルで永退となるハンディを背負うなどの劣性ををはねのけ、最後まで泳ぐことでリズムを取り戻した。その後も3点を加点、追いすがる青商を振りきった。

両チーム併せて16本のパーソナルファウルを数え両チームとも課題の残るゲームであったが、一度はリズムを崩しかけた名古屋が前半のリードを守りきり2回戦進出である。

青商は随所にセンスの光るプレーを見せたが、最後の詰めが甘く得点につながらなかった。3年生が引退すると5人となる1年生GK金を含めた2年生以下も、この敗退の悔しさをバネにして3年生が果たせなかった夢を追いかけつづけて欲しいと願う。全国にはもっと厳しい状況のチームがたくさんある。全国大会出場の経験を生かしていって欲しい。

記 録 者 南部 健

平成１５年度　全国高等学校総合体育大会
(第７１回　日本高等学校選手権水泳競技大会)
水 球 競 技 速 報 用 紙

平成　15　年　8　月　17　日
会場：長崎県：長崎西高等学校プール

ｹﾞｰﾑ№ **4**

帽子の色	白		青	帽子の色
	修道高校		佐賀東高校	
	4		6	

2	0
1	1
1	3
0	2
EX.	
-	
-	
P.T.	
-	

天候：　曇り

審判1：牧田　和彦
審判2：大島　明

戦　評

創立270年以上という歴史ある私立学校である修道高校。2年生主体ながら中国大会で接戦を制して2位となり、2年ぶりの全国大会出場を獲得した。一方の佐賀東高校は、県内唯一の体育コースを有する文武両道を目指した県立高校であり、九州大会3位で21年ぶりに念願の全国大会出場を果たした。両校ともまずは1回戦突破を何がなんでも果たしたいところである。

1P、修道は、パワープレーのチャンスを得るがシュートが決まらず攻めあぐねる。しかし先制したのは修道。ゴール前5mから6番中江が振り返ってのシュートが決まり1点目をゲット。佐賀もすぐ反撃に転じ、4番佐藤がミドルシュートを放つが決まらず。修道はゴール前にボールを集めフローター6番中江がバックシュートを鮮やかに決め2点目。1点をもぎ取りたい佐賀は、5番原口にボールを集め攻撃の起点とする。修道はドロップバックで原口を警戒するが退水をとられ、佐賀のチャンスに。しかし2回のパワープレーを修道はしのぎ2点リードのまま1Pを終了。　2P、両チームともそれぞれのフローターにボールを集めたいところだが、懸命のディフェンスに互いにパスを入れることができず、なかなかチャンスを作ることができない。修道の6番中江と佐賀の5番原口のフローターの激しい位置争いが続く。6'00パワープレー中に修道8番澤村が、3'38ゴール中央から佐賀5番原口がミドルシュートを決め、互いに1点ずつをゲットし3－1の修道2点リードでゲームを折り返す。　3P、スピードがやや落ちてきた修道に対し、佐賀は、執拗にカウンター攻撃を試み、ゲームの流れを引き戻そうと果敢に攻める。この果敢なカウンター攻撃がジャブとなり、修道にじわじわと効き始め、次第に佐賀のペースに。佐賀7番野口が立て続けに得点を重ね試合を振り出しに戻す。しかし、負けじと修道4番高崎が左45度からカットインシュートを決め突き放す。佐賀は3'48パワープレーのチャンスにエース原口がゴール正面にゲットし再び同点とし、最終ピリオドに望みを託す。　4P、なんとしても得点し、リードしたい両チームの一進一退の攻防が続く中、3'33佐賀のカウンター攻撃の中から、5番原口が右45度から値千金の勝ち越しのミドルシュートを決める。更に、野口がパワープレー中にトップからだめ押しのシュートを決め試合を決定づけた。

両校とも、強力なフローターを要するチームで、セット攻撃においては互角の戦いであった。特にドロップバックで下がり目のディフェンスにより佐賀のセット攻撃を封じた修道の組織的なディフェンスには素晴らしいものがあった。しかし、後半のスタミナに勝った佐賀東高校がカウンター攻撃から勝機を見いだした試合であった。さらなる上位を目指して佐賀東に関しては、下がり目のディフェンスへの対策が今後の課題であると考えられる。

記 録 者	重枝武司

平成15年度 全国高等学校総合体育大会
(第71回 日本高等学校選手権水泳競技大会)
水球競技速報用紙

平成 15 年 8 月 17 日
会場: 長崎県:長崎西高等学校プール

ｹﾞｰﾑ№ **5**

帽子の色	白		青	帽子の色
	前橋商業高校		鹿児島南高校	
	11		10	

1	-	3
1	-	1
2	-	2
2	-	0
	EX.	
0	-	1
1	-	0
	P.T.	
4	-	3

天候: 曇り

審判1: 大川 和二郎
審判2: 小谷 正

戦 評

本日一番の注目のカード、関東チャンピオンと九州チャンピオンの対戦である。前商には志賀、鹿南には西栫、ユース日本代表選手の両名をキーマンとして、統制のとれた実力校同士である。事実上の決勝戦との声も上がるほどで、スタンドも1回戦としては異例の超満員となった。

両者スタートからフルスロットルの様相。ファーストオフェンスでシュートをミス、この後すぐに落ち着いてお互いの持ち味を出してがっぷりよつに組む。

前商は中村のフロートから志賀がドライブでチャンスメイク、鹿南の当たりは厳しい。

鹿南は西栫がフロートから先取点をもぎ取る。前商もセットオフェンスからゴール前で退水を誘発、このパワープレーを志賀がしっかりゲット。お互い一歩も譲らない状況と見えたが、鹿南フローター西栫に真っ向勝負の前商、退水は覚悟の上か？西栫のところで退水を誘発した鹿南はパワープレーを西栫が決めてリードする。両チーム1歩も譲らぬ攻防を繰り返す。が、双方、相手退水のチャンスをものに出来ずにいる中、49"に鹿南の柚木の虚をついたミドルシュートがコーナーに決まり、2点のビハインドを得る。しかしこの時点でこれからおこる結末をだれが予想したであろうか？

2・3pは一進一退の攻防が続く。前商はフローター西栫に下がりのディフェンスはせず、前商の持ち味であるプレスディフェンスからカウンターを狙う。ただし、フローターを中村から柳瀬にスイッチするなど状況を見てオフェンスポイントをとり行く。鹿南はディフェンスが遅れ気味となり再三退水のピンチを招くが、GK芝野の好セーブや高さのある守りで簡単にゴールを割らせない。オフェンスも西栫へのきついマークをフォローするように柚木がゴール前で上原からのピンポイントパスを受けて味のあるシュートを決めたり、丸山がきれいにミドルシュートを決めるなどして2点のビハインドをキープしている。

均衡が動いたのは4p、怒濤の攻めを見せる前商は、6'06"相手退水時に速攻で中村がゲット、これで1点差。必死の攻防に必然的におこるエクスクルージョンファウル。もう1点取って楽になりたい鹿南はTOして落ち着いてパワープレーを攻めるがこれが決まらず不安が募る。前商も時間との駆引きをしながら終始カウンターで相手ゴールを目指す。1分も切り終了間近、とうとう相手退水を志賀がズバッと決めて、20"で同点となり延長戦へ突入する。

延長前半、先手を取ったのはまたも鹿南。前商の柏木が退水となると、鹿南は最後のTOをとりパワープレーに集中する。パスを回し前商のディフェンス陣形を崩しながら最後は西栫が左サイドにシュートを突き刺した。意気上がる鹿南であるが、後半になると前商の執拗なカウンターにマークミスがおこり、先ほど退水して得点された柏木が残り34"右サイドでノーマークとなりGKの脇下を抜く同点シュートを放ち、とうとうPT戦となった。

先行は鹿南から、西栫・志賀の両エースが危なげなく決め2投の柚木も決めると、前商1年渡邉のシュートはクロスバーをたたく。ここで燃えたのが前商GK小池、何とこの後相手の4投5投をことごとくセービングし、天に向かって雄叫びをあげガッツポーズ。最後の中村が確実にゲットし、前商が逆転勝利した。

鹿南は、1回戦で消えるには本当に惜しいチームである。両者死力を尽くしたゲームは劇的な結末であった。PT戦後の双方のリアクションの違いが印象的であった。後世の記憶に残る好ゲームであった。

記録者 南部 健

平成１５年度　全国高等学校総合体育大会
(第７１回　日本高等学校選手権水泳競技大会)
水球競技速報用紙

平成　15　年　8　月　17　日
会場：長崎県：長崎西高等学校プール

ｹﾞｰﾑ№ **6**

帽子の色	白		青	帽子の色
	宇都宮東高校	0 - 2	福岡工業高校	
		0 - 7		
		0 - 4		
	1	1 - 2	15	
		EX. - -		
		P.T. -		

天候：

審判1：　槇橋　邦広
審判2：　折笠　敬一

戦　評

宇都宮東高校は、創立40周年を迎え「正・剛・寛」を校訓とする県内有数の進学校である。関東大会で4位を獲得し、昭和55年徳島インターハイに大浦監督が選手として出場して以来23年ぶりのインターハイ出場である。一方の福岡工業高校は、創立107年、「質実剛健・自立・創造」の校訓のもとスペシャリストの養成と地域に根ざした教育活動を実践している学校である。インターハイには22年連続、29回目の出場であり、過去に2回の優勝経験も有している強豪である。九州1位の鹿児島南高校が破れた今、九州の第2代表として是が非でも勝ちたい試合である。

1P、宇都宮東は、福岡工業のカウンターとフローティング攻撃を防ぐため、下がり目及びドロップバックによる守りから、オーバータイム残り数秒になると、トップの選手を相手コートへ攻めさせ得点を狙う作戦。宇都宮東の組織的な守りに攻めあぐむ福岡工業であったが、得意のカウンターにものをいわせ9番後藤からのアシストパスを受け、4番口石が確実にシュートを決め先制。宇都宮東も反撃するためフローターの6番大垣にボールを集めようとするが、福岡工業の執拗なプレスに阻まれ、フローターまで思うようにボールが運べず苦戦を強いられる。1'59にもカウンターから、今度は口石からのパスを9番後藤がシュートを決め福岡工業が2－0でリードし、1P終了。　2P、試合のペースを支配した福岡工業は、怒濤のようなカウンターから2番谷川、5番永田、3番古館らが、ゴール前ではフローターの山方が連続得点し、福岡工業が一挙7点をとり大量リードして前半を終了。　3P、何とかして福岡工業の攻めをしのぎ1点を獲得したい宇都宮東は必死に攻めるが、思うような展開に持ち込めない。ゴール前のフローター山方を封じようと下がる宇都宮東であるが、ドロップバックの連携が1Pのような正確さで持続できず、福岡工業の谷川、古館、後藤にミドルシュートやハンツーシュートを決められ得点差を広げられる。　4P、宇都宮東の必死の反撃が福岡工業の退水を誘う。宇都宮東ベンチはすかさずタイムアウトをとり、パワープレーにおける攻め方を確認し、1点獲得のためメンバーに集中を促す。しかし、無情にも得点にはつながらず、逆に福岡工業8番山方、2番谷川がだめ押しの得点を重ねる。残り2'00、宇都宮東の絶好のカウンターによる2対1のチャンス。1点をもぎ取るために死力を尽くして泳ぐ宇都宮東の選手たち、また、是が非でも失点を防ごうとする福岡工業の選手たちの鼓動が伝わってくるような場面。福岡工業2番谷川が追いつくも宇都宮東の選手への後方からのアタックはペナルティ！　宇都宮東の1点にかける思いがペナルティを誘い、宇都宮東としては最大のチャンスを得る。ここで、宇都宮東のエース6番大垣が渾身の力を込めてシュートを放つ。ボールは福岡工業のゴールネットに突き刺さり、待望の1点をゲット。福岡工業の完封勝ちを阻止した。点数には現れないが、福岡工業の再三のシュートを好セーブした宇都宮東のキーパー池田は特筆すべき選手であった。

福岡工業は、母校から駆けつけたほかの運動部活動生徒の大応援にも後押しされ、持ち味の体力と泳力を十分に発揮した試合であった。また、大差で負けはしたものの、進学校ということで練習時間にも大きな制約がある中、強豪ひしめく関東地区を勝ち抜き23年ぶりに宇都宮東が出場したことは、大変意義あることであるともに、この試合において最後まで投げ出すことなく、自分たちのやってきた攻守を必死に実践する姿は、高校生らしい爽やかな戦いぶりであった。

記録者　重枝武司

平成１５年度　全国高等学校総合体育大会
(第７１回　日本高等学校選手権水泳競技大会)
水球競技速報用紙

平成　15　年　8　月　18　日
会場：長崎県：長崎西高等学校プール　　ｹﾞｰﾑ№ **7**

帽子の色	白		青	帽子の色
	高松南高校	1 - 5	長崎西高校	
		0 - 4		
		0 - 4		
		1 - 2		
	2	EX.	15	
		-		
		-		
天候：	晴れ	P.T.	審判1：　小谷　正	
		-	審判2：　牧田　和彦	

戦　評

心配されていた天候も2日目を迎えやっと夏らしい陽光が降り注いできた。
高松は普通科を中心に家政･園芸･土木･衛生と5学科を有し、まもなく創立１００周年を迎えようとする大規模校である。インターハイ出場は１６回を数える。メンバーは高校から水球どころか水泳競技自体の経験もなかったものがほとんどで、浮くことから初めてやっと3年間でここまで来た。技術よりもチームワークで頑張るということである。
対戦する地元の長崎も状況は同じ、創部自体が4年前5名の部員からスタートしたということで、地元開催の期待を一身に受けてやっと本番までたどりついた。校訓「自律」のとおり、はやる気持ちを律して念願の初出場初勝利をあげることが出来るか？スタンドは満員となった。
見事な立ち上がりを見せたのは長崎、マンツーマンディフェンスをひいた形からマークに対して横からの競合いでボールスチールすると、すかさず全員がカウンターをかけ、ノーマークチャンスを作り出しＧＫを振り落として落ち着いてシュートを決める。馬場（走）が全国大会初得点者となると、その弟の馬場（力）も同じ状況から得点。4'30"にも馬場（走）がパワープレー時にミドルシュートを決めて3点差とした。
高松も乃村をフロートさせたセットの形にはなるものの、長崎の早い当たりにパスがつながらず決定的なチャンスが掴めずにいたが、相手のキープミスからノーマークが出て鎌倉（光）が得点し1点を返す。
その後も長崎はテンポのよい試合運びで2ｐ終了までに9－1と8点リードする。馬場兄弟の反応の良いカウンターからのスピードある泳ぎ、フローターポジションも器用にこなす運動能力は評価できる。奥田や宮田もこれにからみカウンターノーマークなどで得点を上げた。3ｐになるとじっくり落ち着いてセットオフェンスにも取り組み、馬場（走）兄のフロートから馬場（力）弟のドライブでボール展開をするコンビネーションも見せた。馬場（走）･山下･山本などが加点、4ｐにはメンバーチェンジをする余裕も見せ、奥田･馬場（力）が得点して勝利した。
高松は、キャプテンの鎌倉（光）や高橋･井上など3年生が良く声を出し防戦一方のゲーム展開を打破しようと頑張っていたが、4ｐに乃村がフロートからのバックシュートで1点を返したまでにとどまった。7本の相手退水チャンスを生かせなかったのは痛かった。
長崎は念願の1勝をあげ、満員のスタンドとともに歓喜した。スタンド最前列に陣取った女子部員の意気のあった応援が、ゲーム運びの助けとなっていたように重う。何よりも選手達が全力でゲームを楽しんでいたのが印象的であった。2回戦以降の強豪チームとの対戦が楽しみである。
高松は負けはしたものの、全力を尽くしたことと試合前に聞いていてとおり大観衆の前でプレーできたことで充実感を持って終えられたことであろう。この経験を是非地元に帰って後輩達に伝えていって欲しいものである。
スタンドのサポーターと一体となったゲームの様子が実にアットホームで、水球の楽しさが伝わってきた試合であったと思う。

記録者　南部　健

平成15年度 全国高等学校総合体育大会
(第71回 日本高等学校選手権水泳競技大会)
水球競技速報用紙

平成 15 年 8 月 18 日
会場: 長崎県:長崎西高等学校プール

ｹﾞｰﾑ№ **8**

帽子の色	白		青	帽子の色
	富山北部高校		山形工業高校	
	8		11	

1	2
2	3
4	2
1	4
EX.	
-	
-	
P.T.	
-	

天候: 晴れ

審判1: 大川 和二郎
審判2: 目等 聡

戦 評

富山北部は、普通科、工業(薬業)科、商業科からなる総合制高校であり、今年は水球のほかに剣道女子・体操女子もインターハイに出場している。6年連続、6回目の出場であり、平成11年岩手インターハイで4位に入賞した実績を有している。部員が8名と少ないながら、北信越大会を制した勢いそのままにこの初戦をまずものにしたいところ。一方の山形工業は、八十余年の歴史と伝統を誇る名門校である。6年連続、16回目の出場であり、平成6年富山インターハイにて準優勝の実績を有している。冷夏で7月でも水温22℃の環境の中で、厳しい練習を乗り越えてきた選手の忍耐力と粘りを武器に、悲願のインターハイ初優勝を目指す。

1P、膠着状態の中、先制したのは山形工業。6番庄司がカットインし、ディフェンス2人を引きつけアシストパスを出し、5番菅原(大)がゲット。その後も山形工業がパワープレーのチャンスに左サイドから4番菅原(社)がシュートを決め突き放そうとする。このままピリオド終了かと思われたが、残り1秒、富山北部2番大井の渾身の力を込めたミドルシュートがゴールネットに突き刺さり1点差に詰めて1P終了。　2P、パワープレー時に庄司がゲットし山形が差を広げる。いずれのチームもフローターがキーポイントとなるため、富山のフローター武田と山形のフローターDF中嶋、山形のフローター庄司と富山のフローターDF布目の争いは見応えがあるものであった。なかなか思うようにフローターにボールが入らないことからカウンターやミドルシュートの押収となり、富山は布目・横井が、山形は中嶋・菅原(大)がミドルを決め、山形2点のリードで前半を折り返す。　3P、互いに2点ずつを得点した両校であるが、巻き返しをはかりたい富山は、カウンターに活路を見いだし、果敢にカウンターをかける。しだいに山形のDFにミスが見え始め、そこをついて富山の武田がゴール前で踏ん張り、大井がミドルを決め、とうとう同点に追いつき最終ピリオドに勝敗はもつれることとなった。　4P、流れを変えたい山形は、何とかフローターにボールを集めたいが、富山のDFに押し出され2mが確保できない。その状況を把握した周りの選手がカットインを試みる。そのカットインが退水を誘い、山形4番菅原(社)が確実に得点する。その後、富山5番布目が得点し同点とするが、山形の最後の踏ん張りが富山の退水を誘うなど、富山のDFを撃破して連続3得点し、シーソーゲームにピリオドを打った。

どちらもフローターを中心とした攻防に見応えのある試合であった。前半のリードを盛り返した富山北部の頑張りには目を見張るものがあった。4Pの後半に山形工業の粘り強さに押されてディフェンスにおいて辛抱できずに退水が重なったことが富山北部として悔やまれる試合であった。

記 録 者	重枝武司

平成１５年度　全国高等学校総合体育大会
(第７１回　日本高等学校選手権水泳競技大会)
水 球 競 技 速 報 用 紙

平成　15　年　8　月　18　日
会場：長崎県：長崎西高等学校プール

ｹﾞｰﾑ№ **9**

帽子の色	白		青	帽子の色
	鳥羽高校	2 - 2 3 - 1 2 - 3 1 - 4 EX. - - P.T.	秀明英光高校	
	8		10	

天候：　晴れ

審判1：　槇橋　邦広
審判2：　井上　嘉隆

戦　評

昨年のディフェンディングチャンピオン過去3回優勝の鳥羽にこれまた優勝候補の呼び声高い一昨年のチャンピオン秀明英光の好カード。両チームとも優勝するには越えなければならない難関としてとらえているであろう事から、好ゲームが期待されるところである。秀明は1回戦尼崎北を危なげなく下しての2戦目、鳥羽は第1シードからの初戦となる。両チームともジュニアからの水球経験豊富なメンバーがそろっており、レベルの高いゲームとなること必至である

鳥羽はファーストオフェンスから持ち味を見せる。とぎれない泳ぎで次々とクロススクリーンを繰り出し、ボールサイドに展開ゾーンを広げにかかる。この繰り出しの早さには目を見張るものがある。フローターをおかずに動いてボールサイドを取りに行くスタイルは鳥羽のお家芸であるが、左45度だけでなくどの状況からもこれを繰り出せる今年の鳥羽には進化が見られる。

秀明も負けてはいない、スピードならまかせろとばかり相手のシュートミスの瞬間にはカウンターの飛沫が上がる。両チームのこのカウンターの掛け合いには目がついていけないほどの早さがあり、4pをとおして泳ぎ切れた方に軍配が上がるような予見さえする。秀明の2次攻撃パターンは長沼のフロートに大貫・浜田・鈴木・里見がうまく絡んで、秀明の持ち味である自由な発想によるゴールメイクに結びつける。

先制したのは鳥羽、何回かの攻防で秀明のディフェンスがドライブをケアして下がり気味になったところをミドルシュートで本田がゲット。すぐさま秀明も大貫がセット攻撃のノータイムシュートを見事に左隅に決めて1歩も譲らない展開。

鳥羽は渡邉がボールをコントロールしながら攻撃の起点となり、本人も含め格谷・白崎・芝山等がカウンターによるチャンスを確実性の高いシュートに結びつけて得点した。

秀明は2pになるとスタートの3年生に変えて若松・染谷・浜田（卓）・山口の1年生カルテットを起用する。泳ぎ合いの体力勝負になると見てのスタミナ温存策か？1pに引き続き激しい攻防に加え若松の高さを加えたセット時のバリエーションは増えたが、鳥羽ＧＫ雲井の再三にわたる好セービングでゴールを割れないケースが増えてきた。2pは3－1で鳥羽がリードし、3p終了時には7－6と鳥羽1点リードで最終ピリオドに突入する。

高レベルのゲームに付き物の接戦ではあるが、ここまで来たら肝心なのはこの最終ピリオド、特にラスト3分の攻防である。秀明は5'28"鈴木の見事な正面からのループシュートが決まり同点とすると、次の攻撃でもゴール前で石川がシュートチャンスを得る。しかしこのループがクロスバーに阻まれこれに併せて仕掛けた鳥羽のカウンターから3－2のノーマーク、これを白崎が決め、また1点差に突き放す。秀明は我慢してチャンスを狙う。相手のシュートミスをカウンターに結びつけた染谷からゴール前の若松にアシストが飛びゲット、再び同点に追いつく。そして1'24"カウンターの流れから鈴木が右サイドで抜け出し逆転のゴールを決めると、ベンチもスタンドも一緒になってガッツポーズ！

初めてリードを奪われた鳥羽は死力を尽くしてゴールに向かうが、序盤のようなスピードと鋭さが見られず微妙なパスミスを犯す。秀明はマイボールにしたところ45"確実にＴＯでキープの指示。後がない鳥羽は相手のオーバータイム３５”を待たず速い判断で攻めに転じるが、秀明はこれに動じず良くパスをつなげノーマークとなった若松が落ち着いて得点し20"を残して勝利を手中にした。

このゲームのキーポイントは総力戦にあったと思われる。得点能力の高い両チーム、シュートの確実性にすれば鳥羽が一歩上であったが、4pまでの泳ぎ合いで最後には腕に力が入らなかったのではあるまいか？その点秀明はうまく１３人の選手を入れ替え休ませながらパワーを維持した。

ゲーム終了時の秀明：加藤監督の喜びようは、この死闘を制した自然の表現と思われる。その足で鳥羽ベンチまで行き、岩佐監督に握手を求めたすがたは印象的であった。

記 録 者	南部　健

平成15年度 全国高等学校総合体育大会
(第71回 日本高等学校選手権水泳競技大会)
水球競技速報用紙

平成 15 年 8 月 18 日
会場: 長崎県:長崎西高等学校プール

ｹﾞｰﾑ№ **10**

帽子の色	白		青	帽子の色
	長浜北星高校		学法津田学園高校	
	6		5	

2	0
2	0
1	2
1	3
EX.	
-	
-	
P.T.	
-	

天候: 晴れ

審判1: 牧田 和彦
審判2: 榎本 隆

戦 評

長浜北星は、1回戦の金沢市立工業高校を完封した勢いを保ち、この試合も自校ペースでゲームを支配したいところ。一方の学法津田学園は、「自由・自主・自立」をモットーに人間性豊かな教育を目指している学校である。3年連続、3回目のインターハイ出場で、平成13・14年には連続して4位入賞を果たしている。ジュニアのチャンピオンを経験したメンバーで、「今年こそインターハイ制覇」を目標に3度目のインターハイにチャレンジ。

先制したのは長浜北星。フローターへのジャストパスにフローターＤＦがたまらず退水。これを長浜4番成田が確実に決める。津田もカウンター、フローティング、Ｃ(左)ゾーンでのクロス攻撃と多彩な攻撃を試みるが、いまいちパスが正確に通らず決定的なチャンスが作れない。0'48、長浜4番成田がゴール前で、フローターＤＦからの離れ際に息のあったパスを受けワンタッチシュートを決め、2点リードで１Ｐ終了。　２Ｐ、津田は何とかフローター山中にボールを入れたいところだが、長浜のフローターＤＦ仁添の攻守と周りのディフェンスの戻りに阻まれ歯車がなかなかうまく合わない。津田は個人技を生かし、それぞれが得点チャンスをつくろうと懸命に動くが、焦りからかリズムが合わず、逆に長浜5番清水(安)に連続得点されて4点差とされ、2ピリオドの終了ブザーを迎える。　３Ｐ、津田は、流れを変えようと8番田中をフローターに入れ長浜ゴールに迫り、絶妙のワンタッチシュートを見せたが無情にもボールはゴールの外へ。この攻防の切り替わり時に津田は反則を犯し痛い退水。このチャンスを長浜4番成田が確実にゲットし突き放す。なかなか点の取れない津田は、7番菅野をディフェンスに戻らせず、一人居残りの作戦にでる。この作戦が功を奏し、津田7番菅野が待望の１点を獲得する。その後、一進一退の中、津田は執拗にフローターの8番田中にボールを集め退水を誘い、主将の5番石川がゲットし、初めてピリオドをリードし、あと３点差とし、４Ｐに逆転の望みを託す。　４Ｐ、津田はエースフローター山中を戻し、このピリオドにかける。長浜は、3点リードしていることで無理に攻めないという作戦なのか、選手たちに守りに入ろうという気持ちが生じたのか、それまでの攻撃リズムが明らかに変わり、運動量も減ったように思われた。6'08、長浜のフリースロー中のミスに乗じてカウンターで津田5番石川がカウンターで貴重な１点をゲット。これが引き金となり流れが津田に変わり、5番石川が再びゲットして１点差に。このまま流れは津田へ完全に移るかと思われたとき、長浜のエース成田がゴール前で踏ん張り退水を引き出し、9番中野が得点し、流れの移行を阻止にかかる。しかし、1'15津田の主将石川がディフェンス二人を廻し込んで退水を誘い、自らがシュートを決め、再び１点差に詰める。残り1'00は両チームの駆け引きに息詰まる展開であった。特に長浜としては、不必要なファールによる攻撃権の移行もありヒヤッとした場面もあったが、この１点を守りきり接戦を制した。

ジュニアのチャンピオン経験のある選手をそろえた津田学園に対し、攻撃の起点となるフローターへのパスを徹底的に防いだ、長浜のフローターＤＦの10番仁添、11番山口らの活躍と長浜北星の試合巧者ぶりが勝利につながった。しかし、負けた津田学園も個人的能力の高い選手を有する素晴らしいチームであり、若い選手も多いことから今後も楽しみなチームである。

記 録 者	重枝武司

平成１５年度　全国高等学校総合体育大会
(第７１回　日本高等学校選手権水泳競技大会)
水球競技速報用紙

平成　15　年　8　月　18　日
会場：長崎県：長崎西高等学校プール

ｹﾞｰﾑ№ **11**

帽子の色	白		青	帽子の色
	由良育英高校		名古屋高校	
	8		2	

1	0
2	1
3	1
2	0
EX.	
-	
-	
P.T.	
-	

天候：　晴れ

審判1：　折笠　敬一
審判2：　井上　嘉隆

戦　評

由良は昨年の4位シード、間もなく迎える創立１００周年を契機に鳥取県内の高校再編計画により「由良育英」の校名が変更される予定で、この名前で出場できるのも後2年ということである。ここ3年ベスト4止まりであるので何とか上位を狙いたいところ。
名古屋は、リズムの良いゲーム運びで青森に快勝し、波に乗ってこのゲームもものにしたいところである。

スタメン勝負、フローター中心のセットにカウンター、オーソドックススタイルで似かよっている両チーム。こういうときはミスが命取りになる。
名古屋はフローター脇田が頑張り退水を誘発するがこのパワープレーチャンスを生かせない。由良も同じく決定的なチャンスがなくねばり強く攻防をつづけるが、1'18"に今中の7ｍＦＴシュートが決まり先制する。2ｐに入り名古屋は脇田のフローティングで得点し同点に追いつくと、逆転を狙って積極的に攻防を繰り返す。両チームしばらくターンオーバーが続き、由良は相手退水のチャンスを選るものの決定打に至らず、息をのみため息に変わる瞬間を繰り返す。それでも石田がフローティングから得点し、ピリオド終了間際にも島がゴールして３－１と2点のリードで折り返す。3ｐに入るとすぐ由良のファーストオフェンスで石田がフロートし、サウスポーから見事にバックシュートが決まり3点差とする。こうなると由良は余裕ができ、逆に名古屋は追いつこうと必至になるだけ力が入り、徐々にカウンターのスピードが落ちてきた、早い内のターンオーバーでシュートまで行かないケースが増え、じわじわと由良のペースになっていく。名古屋も郷司が1点を返し気を吐いたが、このピリオドを３－１とし、4点をリードし最終ピリオドを迎えた。名古屋は4点差を跳ね返すためモットーとしている泳ぎで対向するが、苦労してシュートまで行く場面も由良ＧＫ川上の壁は厚くうち破ることができない。刻々と終了が近づき、残り23"に奪ったパワープレーチャンスも、またしても由良ＧＫ川上に跳ね返され最後まで追いつくことはできなかった。

攻防スタイルがオーソドックスな同士であったが、やや由良の自力が勝った形となった。基本的な能力にはそんなに差はないと思われる。
名古屋は部員確保にも苦労があると聞いているが、2年生以下のメンバーはこのインターハイの経験を是非地元で生かして欲しい。

記録者	南部　健

平成15年度 全国高等学校総合体育大会
(第71回 日本高等学校選手権水泳競技大会)
水球競技速報用紙

平成 15 年 8 月 18 日
会場: 長崎県:長崎西高等学校プール

ｹﾞｰﾑ№ **12**

帽子の色	白		青	帽子の色
	佐賀東高校		埼玉栄高校	
	6		12	
		0 - 3		
		3 - 3		
		1 - 3		
		2 - 3		
		EX.		
		-		
		-		
		P.T.		
		-		

天候: 晴れ

審判1: 目等 聡
審判2: 大島 明

戦 評

1回戦の修道戦を逆転勝ちで勢いに乗る佐賀東。1試合経験したことで選手も雰囲気に慣れて昨日以上のパフォーマンスが期待される。過去に2回の優勝経験を誇る埼玉栄高校に挑む。一方の埼玉栄高校は、様々な運動部が全国的に活躍をしているスポーツが盛んな学校である。昨年の茨城インターハイでは惜しくも準優勝に終わり、今年は昨年の悔しさをこの長崎の地で晴らすべくこのインターハイに臨んでいる。

1P、開始早々、栄は得意のカウンターやアーリーオフェンスで佐賀に襲いかかる。佐賀はこの攻撃に食らいつき必死でしのぐが、セット攻撃に持ち込まれ、ゴール前で栄のポイントゲッター4番小山内にフローティングシュートを決められる。栄の速い攻撃を止めたい佐賀であるが、焦る思いはオーバーアタックとなり退水に。再び小山内がゲットする。互いにセット攻撃の際は、フローター に対し徹底マークを見せるが、栄3番大宮がフローターに入れると見せかけて見事なミドルを決め栄が3－0とリードし終了。
2P、栄のカウンターは益々勢いを増し、7番鈴木、2番虎岩、4番小山内が次々と得点を重ねる。佐賀はエースの原口が徹底マークされゴール前のポイントがなかなかとれないことから、C(左)ゾーンでのクロスを絡ませて原口をゴール前に入れる作戦に。5'45栄のオーバーアタックにより、佐賀は絶好のチャンスを得る。佐賀は落ち着いて右トップから左ポストの3番川久保に絶妙のパスを回し、川久保がワンタッチでこれを決め待望の1点を獲得。更には、6番副島、5番原口が連続得点を決め3点差とし後半に逆転の望みをつなぐ。
3P、先に点数をとったのは佐賀。佐賀のフローター原口へのパスを栄はうまく防いでいたが、ディフェンスの一瞬の隙をついて原口へジャストパスが入り、足を踏ん張り原口がフローティングシュートを決め2点差に詰める。しかし、栄はあわてず、大宮･永沢･小山内が次々にゲットし佐賀を突き放す。
4P、佐賀は徹底的に原口にボールを集める作戦で得点を狙う。その期待に応えワンタッチのミドル、ゴール前バックシュートを栄ゴールに突き刺す。栄は慌てず騒がず、最後まで自分たちの水球を貫き通し、岩野･小山内･永沢がシュートを決め、最終的にはダブルスコアでこの試合を制した。

全国大会常連校である埼玉栄は、常に自分たちの持ち味であるスピードと組織力を生かし目標の優勝へ向け一歩ステップを登り、明日、山形工業とベスト4をかけての熱い戦いが期待される。一方、敗れはしたものの、佐賀東も久々のインターハイ出場ながら、原口を中心にまとまったチームであり、強豪埼玉栄を相手に善戦した試合であった。

記 録 者	重枝武司

平成１５年度　全国高等学校総合体育大会
(第７１回　日本高等学校選手権水泳競技大会)
水球競技速報用紙

平成　15　年　8　月　19　日
会場：長崎県：長崎西高等学校プール

ｹﾞｰﾑ№ **13**

帽子の色	白		青	帽子の色
	秀明英光高校		前橋商業高校	
	3		5	

1	0
2	3
0	0
0	2
EX.	
-	
-	
P.T.	
-	

天候：　晴れ

審判1：　目等　聡
審判2：　牧田　和彦

戦　評

関東･近畿･九州ブロックそれぞれのチャンピオンがひしめくＡブロック、予想どおりの激戦の末に勝ち上がった両チーム、ベスト4をかけて関東ブロック決勝戦の再来となった。お互いの手の内を知り尽くしている同士接戦となることは必至である、目が離せない。

相手の強さを知っている両チーム、ミスをすればカウンターで行かれることはわかっている。一番確実性のあるセットオフェンスの応酬となる。

前商はフローター中村のドライブから退水を奪取するが秀明の早い当たりにシュートミスを犯し得点できず。逆に秀明は左ポストでフロートした長沼がバックシュートでねじ込んで先取点を奪う。2'53"にもターンオーバーの中で退水を得これを攻めるが、鹿南戦でのＰＴ戦以来乗っている前商ＧＫ小池がシュートセーブしてゴールを割らせず、均衡した攻防が続く。

２ｐもセットの攻防となるが、フローターケアのために下がり気味となった秀明ディフェンスに、右４５度の位置から柳瀬がミドルシュートを放ち前商が追いつく。両チームとも相手の出方が読めてきたところで攻めにも積極性が現れ、激しい攻防となる。秀明は大貫･長沼のWフローターの形から退水を奪取し長沼が決める。前商も負けずと志賀がフロートから退水を誘発、これを柳瀬がミドルで得点する。何度かの攻防の後2'47"相手退水を攻めきれなかった秀明は入水後のまだ陣形が整わない隙をつき浜田（卓）がゲット。しかし前商もピリオド終了間際に佐藤がミドルシュートを打ち込んでまた同点となる。一進一退のシーソーゲームの様相を呈する。

状況に応じて１３名をフルに入れ替えながらゲーム運びする秀明は３ｐにはいると大貫･若松のWフロートで攻め入るが、前商の必死のディフェンスにゴールを割ることができず、思うようにならないいらいらが募ってくる。ディフェンスも荒くなり退水のピンチを招くが、退水ゾーンには余程自信を持っているのか早い当たりで隙を見せず、前商のパワープレーをことごとくセーブする。このピリオドは7分間点が入らず、同点のまま最終ピリオドを迎えた。

やはりここまで来たかという感のあるキーポイントの４ｐ。明暗を分けたのは退水の攻防だった。先にチャンスを得たのは秀明、立て続けに得た2回のパワープレーチャンスを攻めるが、前商ＧＫ小池がまたもセービング、もう1本はディフェンスのハンズアップの手が阻み得点できず。逆に前商5'04"に得たパワープレーを攻める。今まで中のタップシュートでゴールを狙っていたケースが多かったが、左サイドのエース志賀がディフェンスに当たられながら放ったシュートがＧＫの手をすり抜けネットを揺らす。１点リードする。3'57"にも同じ形で志賀からの渾身のシュートがＧＫの頭上を抜け２点リードとなる。ここでの２点差は痛いが残り時間はまだあり得点力の高い秀明にもまだチャンスはあると思われた。思うようにならない秀明は焦りからか浜田（卓）が危険行為で永退となる。ここで前商は一番怖い秀明のカウンターケアの策として、中村･志賀･柳瀬の3トップオフェンスをしき逃げ切りの盤石体制を徹底する。秀明必死の追い上げも及ばず前商が勝利をものにした。

このような高レベルな戦いは、これから未来のある選手達にとってすばらしい経験となるはずである。この大舞台での接戦を制した側も敗者となった側も、これからも続く水球人生に活かしていって欲しいと願う。悔し涙の秀明の選手達に素直に握手や抱擁でお互いの健闘をたたえる前商の選手達、この光景に目頭を熱くしてしまった。

記録者　南部　健

平成１５年度　全国高等学校総合体育大会
(第７１回　日本高等学校選手権水泳競技大会)
水球競技速報用紙

平成　15　年　8　月　19　日
会場：長崎県：長崎西高等学校プール

ｹﾞｰﾑ№ **14**

帽子の色	白		青	帽子の色
	福岡工業高校	3 - 1	長浜北星高校	
	5	0 - 1	4	
		1 - 1		
		1 - 1		
		EX.		
		-		
		-		
天候：		P.T.	審判1：大川 和二郎	
		-	審判2：槇橋　邦広	

戦　評

宇都宮東高校を１５－１で撃破した福岡工業。持ち前のスピードを生かし、全員攻撃･全員防御に徹し、5年ぶりのベスト4進出を果たしたいところ。長浜北星のポイントゲッター成田をいかに押さえ長浜北星のリズムを崩すかがポイント。一方の長浜北星は、試合巧者ぶりをいかんなく発揮し、昨年･一昨年4位の津田学園を接戦の末に敗り、この勢いで１５年ぶりのベスト4進出をものにしたいところ。福岡工業のカウンターをいかにして防ぐのか･････長浜北星の作戦はいかに？

１Ｐ、福岡工業、クロス攻撃で得た退水にすかさずタイムアウトをとり先制点に意欲を見せる。見事3番古館が左サイドから決め思惑通り先制する。ゴール前の反則で福工は二人少ないパワープレーのチャンスを得、5番永田（達）が追加点をとる。長浜北星はツートップの成田と清水（安）を代わる代わるフローターに入れゴールを狙う。退水を誘発した長浜は7番落合が1点を取り返す。数回の攻防後、福工4番口石が鋭いカットインを見せ退水を誘い自らゲットし、2点差とする。　２Ｐ、長浜は周りにノーファウルプレスをかけゴール前に入れさせない作戦、一方の福工は十分に相手を引きつけのカウンター狙い。5'30長浜はパワープレーのチャンスに長浜11番山口が右サイドから1点を挽回する。長浜の周囲のノーファウルプレスに苦戦する福工はなかなかフローターにボールがつながらずこのピリオド得点できないまま３－２で福工１点のリードで前半を終了。　３Ｐ、一進一退の攻防が続く中、9番中野の左サイドからの絶妙のループシュートが右隅に決まり長浜が試合を振り出しに戻す。その1分後、福工のパワープレー。左サイドからのシュートを長浜のキーパー湯本が好守するもリバウンドを8番山方に押し込まれる。長浜は、ツートップを中心に攻め、無理な全員攻撃を避け福工のカウンターをうまく防ぐ。終了間際、長浜は同点に持ち込むチャンスのパワープレーを得、シュートを試みるも福工キーパー鬼本が好セーブし、福工が1点リードのまま最終ピリオドへ。４Ｐ、早くもう1点が欲しい両チームであるが、双方ともディフェンスを崩せず攻防が続く。3'25福工のシュートミスに乗じたカウンターで長浜6番の寺田が右サイドにボールを運びドリブルシュート。キーパー鬼本がセーブするも長浜4番成田がリバウンドを押し込み再び振り出しに戻す。このまま延長かとも思わせる場面であったが、2'55福工フローター山方が全身の力を振り絞ったゴール前の廻し込みで結果として勝ち越しとなる貴重な1点をたたき出す。試合終了間際、長浜はタイムアウトをとり、残り１３秒を駆使しての作戦を確認する。緊張感が張りつめる場面。ゴール前に運ばれたボールは、4m付近で切り返した長浜のエース成田の手に。成田の放った運命のシュートは無念にもポストに当たり万事休す。

お互いの持ち味を防ぐためのディフェンスに徹底する中、それでもチャンスを切り開いて得点するという水球のおもしろさを見せてくれた試合であった。敗れはしたが、2度にわたり同点に追いついた長浜北星の粘り強さは大いに評価できる。福岡工業は最後まで慌てず自分たちのやってきたことを信じてプレーし続けたことがこの試合の勝因と考えられる。

記　録　者	重枝武司

平成15年度 全国高等学校総合体育大会
(第71回 日本高等学校選手権水泳競技大会)
水球競技速報用紙

平成 15 年 8 月 19 日
会場: 長崎県:長崎西高等学校プール

ｹﾞｰﾑ№ **15**

帽子の色	白		青	帽子の色
	山形工業高校	3 - 2	埼玉栄高校	
		0 - 3		
		3 - 1		
		2 - 1		
	8	EX. -	7	
天候:	晴れ	P.T. -	審判1: 井上 嘉隆 審判2: 折笠 敬一	

戦 評

富山北部に接戦の末勝ち上がり、フローター中心のオーソドックスセットがカラーの山形工業。佐賀東を安定したゲーム運びで下し、カウンターと機動力が信条の昨年の準優勝校埼玉栄。それぞれの特徴を出せるかが見物である。

両者慎重な立ち上がり、山工はセットオフェンスでフローター庄司にボールを集めようとするが、栄のうまい下がり目のディフェンスに悩まされる。しかしこの下がり目をついて菅原(剛)がミドルシュートで先制する。栄は切り替えの早いカウンターで山工のディフェンス陣系を崩し退水を奪取するが、山工の堅いゾーンディフェンスにゴールできない。しかし栄はカウンターからチャンスメイクし永沢がゲットする。山工もうまくフローター庄司にパスを入れここから得点、また53"にはパワープレーで庄司がゲットしリードを広げる。栄もピリオド終了間際にカウンターから右サイドの角度のないシュートを小山内が決めて1点差で2pへ。
それぞれの持ち味を出し合い攻防するが、栄は大宮が右サイドからGKの脇の下を抜くうまいシュートで同点とすると、3'09"には退水を奪取する。これは何とか山工がゴールを死守するが、1'55"には岩野が、54"にも鈴木がシュートを決め連続得点であっさり逆転する。
ハーフタイムに十分な指示を受けた両チーム、好展開となったのは山工。栄のフローターケアやや下がり目ディフェンスに、菅原(社)のミドルが炸裂する。1本目は左45度からハンズアップした2人のディフェンスの間、脇の下でバウンドさせたクロスシュートが逆サイドのネットを揺らし、2本目は同じ位置からディフェンスの手を外側から巻き込んでゴール同サイドにスパッと、この連続ゴールで同点に追いつき思わずベンチもガッツポーズ！コーチの弁では「不断の練習でも決まらないシュートが出た」とのこと。このミドル2本で栄のディフェンスに不安がよぎる、カウンターが出なくなった･･･。それでも1年虎岩が味のあるシュートをねじ込み突き放しにかかる。しかし山工も粘り、今度は吉本が右サイドの難しい角度からミドルシュートを決め、同点で最終ピリオドへ。

激しい攻防に疲れが見え始めた両チームだが、やや追いついた山工に元気が感じられる。下がり目のポジションからのスタートのせいもあるのかいつもの栄のカウンターが見られなくなった。山工はカウンターの流れからフローターポジションで横に動いた庄司に菅原(剛)からの絶妙なスルーパスが飛びワンタッチシュートが決まり逆転する。栄は大宮･小山内･岩野らがいいポジションでゴールを狙おうとするが、山工は退水すれすれの必死のディフェンスでしのぐ。ところが山工の逃げ切り気味の攻防が功を奏したか、35”ノータイムで左サイドから放った庄司のループシュートがゴールに吸い込まれ1'45"を残して2点差となる。早く追いつきたい栄は退水を奪取すると右サイドだシュート力のある鈴木がゴールに挑むが、連続2本のシュートも決まらず残り時間は1分を切る。山工はゴール死守で必死となり48"にも退水を犯すと、栄は速攻右サイドから逆にパスを振って今度は確実にこのチャンスをものにする。しかし残り時間は45”充分時間を使ってキープした山工が逃げ切りがちをおさめた。

こういうゲームでは得てしてラッキボーイが出るものである。見事なミドルシュートも日頃の練習の積み重ねがなせる技である。努力の成果が何時でも出せるよう自分をコントロールする能力が必要となる。
栄のセンスあふれるプレーはまだ見ていたかった。この敗戦をステップボードにして欲しいと願

記 録 者	南部 健

平成１５年度　全国高等学校総合体育大会
(第７１回　日本高等学校選手権水泳競技大会)
水球競技速報用紙

平成　15　年　8　月　19　日
会場：長崎県：長崎西高等学校プール

ｹﾞｰﾑ№ **16**

帽子の色	白		青	帽子の色
	由良育英高校	2 - 0	長崎西高校	
	11	1 - 0	4	
		5 - 4		
		3 - 0		
		EX. - -		
		P.T. -		

天候：

審判1：大島　明
審判2：大川 和二郎

戦　評

昨年度のような大型選手はいないが、運動量の豊富さで名古屋を敗り、地元長崎西との戦いを迎えた由良育英。何としてもこの試合に勝って4年連続のベスト4進出を確保したいところ。一方の長崎西は、高松南を大差で敗りインターハイ初勝利を飾り、この準々決勝に進出してきた。インターハイの常連である強豪由良育英に対し、どんな作戦で臨むのか。今日も地元の大歓声に支えられての活躍が期待される。

１P、是が非でも先制点をとりたい両チーム、果敢に攻めるが相手ディフェンスに翻弄されミスが続きお互いに攻めきれない。先制をしたのは由良育英。3番石田がフローティングでのバックシュートでゴールネットを揺らす。その直後、長崎西はパワープレーのチャンスを得るが得点につなげることができない。互いにフローターをケアし下がりのディフェンスを引いているが、由良5番今中がマークの下がったところをすかさず思い切りの良いミドルを決め２－０とし１Pを終了。　２P、2点のビハインドを取り返そうと長崎は、ゴール前の馬場（走）にボールを集めようとするがなかなか入らず、はやる気持ちからかオフェンスファウルやパワープレー中のシュートミスが目立つ。由良は再びマークが下がったところを中野がミドルを決め３点差に。３P、長崎にパワープレーのチャンス到来。5番馬場（力）のミドルシュートのリバウンドを7番奥田が押し込み待望の１点目。会場は割れんばかりの大歓声に包まれる。ここで一気呵成に反撃に転じたいところであるが、その直後、長崎はフリースロー妨害で不用意な退水で一気にピンチに。このピンチを全員が一丸となり守りきるが、不正入水で痛恨の再退水。由良13番島が確実に決め、長崎の反撃のムードに水を差す。4'55長崎はパワープレー時に6番馬場（走）が2点目を得る。疲れが見え始めた長崎は、しだいにディフェンスの戻りが遅くなり、由良4番前川がミドルを決め追加点を重ねる。その後、由良は、4番前川が2点、12番新玉が1点をたたき出す。負けじと長崎も2番嶋津がトップから思い切ったミドルを決め、7番奥田が退水中にワンタッチシュートを決め、３Pを終了して、８－４の由良のリードで最終ピリオドへ。　４P、長崎はこの7分間で勝利の女神を引き寄せるためには積極的に攻撃するのみ。しかし、由良はフローターをチェックするため、それまでと変わらない下がり目のディフェンスを忠実に行い、インターセプトからのカウンターで5番今中、3番石田がゲット。長崎の最後の頑張りも由良ディフェンスを崩すことができず、逆に0'22に由良13番島が右サイドからのドリブルでバウンドシュートを決め、１１対４のスコアで由良育英が勝利を収めた。下がり目のディフェンスに対し、果敢にミドルシュートを打って得点をした由良育英と、由良のディフェンスに防がれ打たせてもらえなかった長崎西の差が見られた試合であった。

由良育英は、最後まで下がり目のディフェンスシステムにより、長崎の得意な攻撃をさせない試合展開でベスト4進出を決めた。一方の長崎西は会場の大声援を受け、名門由良育英に対し真っ向勝負を臨んだが、力及ばず勝利を勝ち取ることができなかった。しかし、インターハイ初出場ながらここまで健闘した長崎西に会場からは割れんばかりの拍手が鳴り続けていた。

記　録　者	重枝武司

平成１５年度　全国高等学校総合体育大会
(第７１回　日本高等学校選手権水泳競技大会)
水 球 競 技 速 報 用 紙

準決勝（1）

平成　15　年　8　月　19　日

会場：長崎県：長崎西高等学校プール

ｹﾞｰﾑ№ **17**

帽子の色	白		青	帽子の色
	前橋商業高校	2 - 2 2 - 1 3 - 0 1 - 0 EX. - - P.T. -	福岡工業高校	
	8		3	

天候：　晴れ

審判1：　榎本　隆
審判2：　小谷　正

戦　評

前商は２７回出場で優勝6回、福工は２９回出場で優勝2回の古豪同士、ベスト4に勝ち上がったのは両校とも5年ぶりである。ここまで来たら目指すは優勝のみ！壮絶なしのぎ合いが予想される。

序盤からお互いダブルヘッダーの疲れも感じさせず力強いプレーが続く。前商はフローターの中村･柳瀬をうまくスイッチさせながらミスマッチを誘い、うまくポジショニングした柳瀬がフロートからバックシュートで先制する。福工のディフェンスは右サイドからの下がりでフローター中村のケア、サイドから打たしてカウンターを狙うが、前商のカバーも早くセットオフェンスの勝負になることが多い。お互い相手退水のチャンスを得るが、シューターを絞った的確なマークでなかなかゴールを割ることができずターンオーバーとなる。福工は2本目のパワープレーで口石が右サイドからのきれいなバウンドシュートを決めゴールマウスを開く。前商もすかさず中村が高い位置でのフロートからミドルに近いシュートをコーナーに決める。福工はゴール前の攻防から退水を引き出し、これを谷川がトップからミドルシュートを落ち着いて決める。全く互角の展開となった。

２pも同様の状況が続きしばらくターンオーバーの繰り返しで膠着状況となるが、中村がやはり高い位置でのボールキープからシュートに結びつけゲット、前商が一歩リードする。この後前商のディフェンスで、ゴール前で退水、ボールを奪おうとしたアタックがオーバーアタックとなりW退水。このチャンスを谷川がきっちり決めて福工また追いつく。福工はさらに相手のシュートミスに乗じてカウンターからトップ抜けとなり、これが決まれば逆転！と思われた。しかしこのパスに前商ＧＫ小池が判断よく飛び出しカット、逆にカウンターとなりノーマークの志賀がゴールする。この1点は福工にとって痛かった。このあと福工は2度の退水ピンチをしのぎ後半へ突入する。

３pにはいると流れが変わる。しばらく攻防が続いたあとの福工はまたも退水のピンチをＧＫ鬼本がセービングでしのぐ、しかし前商のボールへのつめが早く痛恨のアンダーウォーターを犯してしまいＰＦとなり、志賀がこのＰＴをしっかり決めて2点差とする。福工ベンチからは長浜監督から檄が、スタンドでは運動部総出の大応援団が逆転を期しての大声援が飛ぶが思うようにゴールまで結びつかない。逆に前商は、2'50"福工の下がり目ディフェンスに今まで打たされていた渡邉が意地のミドルシュートを決め、2'09"にもカウンターの流れから7m付近でノーマークとなった柳瀬のミドルがコーナーに決まり4点差となる。福工はまだ追いつけると必死に攻防するが、カウンターのスピードが徐々に落ちてくるのが見て取れるようになり、最後のシュートにも確実性を欠く場面が増える。

４pにはいると選手達の疲労もピークに達し、お互い最後の詰めを欠き膠着状態に陥る。福工は残り4分でＴＯをとり逆転に望みをかけて指示を送るが、逆に元気を増したのは前商の方だった。2'19"には志賀が得意の左４５度のポジションで柳瀬からのアシストをクリーンシュートしとどめを刺す。この後、福工も最後の反撃を試みるが、ＧＫ小池に跳ね返され得点はできずにタイムアップとなった。

この炎天下の中のダブルヘッダー、午前中の準々決勝のハードゲームの疲労をものともせず最後まで泳ぎ切った前商に凱歌が上がった。特に１戦毎に力を付ける前商ＧＫ小池の好プレーが光った。

福工はスタンドの大応援団にもエネルギーをもらい最後まであきらめずに死力を尽くしてプレーしたが、技能レベルは互角であったがスタミナの面で相手が一枚上手であった。組織的な応援と、くたくたになった選手達の労をねぎらうスタンドの友人達、この姿に「学校ってこうでありたいものだ」と感じたのは私だけであろうか？

記録者　南部　健

平成１５年度　全国高等学校総合体育大会
(第７１回　日本高等学校選手権水泳競技大会)
水球競技速報用紙

準決勝（1）

平成　15　年　8　月　19　日
会場：長崎県：長崎西高等学校プール

ｹﾞｰﾑ№ **18**

帽子の色	白		青	帽子の色
	由良育英高校	2 - 6	山形工業高校	
		2 - 3		
		3 - 3		
		3 - 3		
	10	EX.	15	
		-		
		-		
天候：		P.T.	審判1：　大島　明	
		-	審判2：　槇橋　邦広	

戦　評

地元長崎を敗り、ベスト4進出を決め、この試合に勝って2年ぶりの決勝進出を果たし、18年ぶりの優勝を狙いたい由良育英。一方の山形工業は、埼玉栄を接戦の末敗り、9年ぶりのベスト4進出で、この試合に勝って9年ぶりの決勝へ進み、悲願の初優勝に大手をかけたいところ。果たして、決勝に進み前橋商業高校と優勝を争うのは由良育英か？、山形工業か？　熱戦が期待される試合である。

由良育英はハーフゾーンで山形のセット攻撃をかわす作戦だが、山形は、由良のディフェンス体系が整う前にアーリーオフェンスでチャンスを作り、5番菅原（大）がミドルを決め先制。由良も反撃に転じ、パワープレーのチャンスにレフティー石田がゲットし、すかさず同点に。点の取り合いとなりそうな様相。山形は6番庄司がゴール前でのハンツーを決めると、更に退水のピンチに、ベンチの作戦か、はたまた仲間のディフェンスへの自信の現れか、20秒の退水時間経過後、9番菅原（剛）が守りに戻らず、そのまま相手ゴールへ。これが功を奏し、1対0のカウンターで得点し流れを引き寄せるポイントとなる。これを契機に菅原（剛）、菅原（大）が連続得点する。由良3番石田がミドルで反撃するも、山形の4点リードで１Ｐを終了。
２Ｐ、山形は35秒のオーバータイム間際に放った2番中嶋のロングシュートで、更には角度の薄い右サイドからのドリブルシュートで4番菅原（社）が得点を重ねる。その後、互いにゴール（由良：今中・島、山形：庄司）を奪い合い、前半を山形が5点リードで折り返す。
３Ｐ、セットではハーフゾーンでフローターとＣ（左）ゾーンからＡ（右）ゾーンへのドライブによる攻撃をうまく防いでいた由良であるが一瞬の隙をつかれフローター6番庄司に振り返りざまのシュートを許す。その後、由良は、安達のパワープレー中のシュートで１点、前川のゴール前でのディフェンスを振りちぎってシュートで２点をかせぐ。山形も、庄司のフローティング及び退水中の得点、菅原（大）のミドルシュートで得点し、このピリオドは３点ずつでピリオドを分ける。
４Ｐに入っても、お互いの攻撃は一進一退で、３点ずつ（由良：13番島、3番石田、4番前川、山形：庄司、菅原（社）2）を得点し、このピリオドも分けたが、由良は1ピリオド目の得点差を縮めることができず、最終的に１５－１０で山形工業が決勝に駒を進め、悲願の初優勝に向け大手をかけた。負けはしたもの、主将前川を中心に最後まであきらめず山形工業に食らいついた由良育英の健闘をたたえたいと思う。

山形工業は、カウンターにアーリーオフェンス、庄司を浮かべてのフローティングなど、持ち味を十分に発揮した攻撃で終始押し気味に試合を進め、由良育英を突き放し決勝戦への切符を手にした。由良育英は、ハーフゾーンで相手のセット攻撃を防いだものの、山形のペースを崩すことができず涙をのんだ。それにしても由良としては、１Ｐの大量失点が悔やまれる試合であった。

記　録　者	重枝武司

平成１５年度　全国高等学校総合体育大会
(第７１回　日本高等学校選手権水泳競技大会)
水球競技速報用紙

3・4位決定戦

平成　15　年　8　月　20　日
会場：長崎県：長崎西高等学校プール

ｹﾞｰﾑ№ **19**

帽子の色	白		青	帽子の色
福岡工業高校	7		5	由良育英高校
		2 - 1		
		3 - 0		
		1 - 4		
		1 - 0		
		EX.		
		-		
		-		
		P.T.		
		-		

天候：　晴れ

審判1：　小谷　正
審判2：　大島　明

戦　評

平成１５年度長崎インターハイもいよいよ最終日。福岡工業は6年ぶりの、由良育英は3年連続の3位以内入賞を目指す。福岡工業は、谷川･古館･口石･山方でチーム得点の83%を、由良育英は石田･前川･今中･島で93%をたたき出しており、しかも各個人が平均して得点しており、お互いに守りのポイントを絞りにくいチーム同士の対戦である。3位の椅子を争っての激戦が期待される。

１P、最初にチャンスを得たのは福岡工業。退水によるパワープレーを得たがここは由良が守りきる。由良育英は、4番前川をフローターに入れボールを集めるが、福工2番谷川がインターセプトし、そのままカウンターで持ち込みマークを引きつけ5番永田(達)の先制ミドルにつなげる。両校とも昨日まで、チーム得点の約1/4をフローティングでとっており、フローターへのジャストパスがキーを握る。残り2分を切ったところで、福工･山方、由良･今中がフローターディフェンスを振りちぎり得点し、福工2-1由良でピリオドを終了する。

２P、由良は、フローターをケアして周囲のディフェンスを下げて、対照的に福工はマンツープレスでフローターへのジャストパスを阻止する。そんな中、福工･山方がＤＦが戻る前に振り返ってのゲット。由良も、前川･今中らがゴール前で攻撃の起点をとる。由良のゴール前へのボールを福工･谷川がまたしてもインターセプトしカウンターにつなぎ、4番口石がバウンドシュートを決める。更には、由良がゴール前をケアしたところを9番後藤が思い切りよいミドルで追加点を稼ぐ。1'51福工の退水を誘発した由良はチャンスを迎えるが、攻め急いだためか痛いオフサイド。福工の4点リードで前半終了。

３P、由良の猛反撃が始まる。この勢いに福工ディフェンスのリズムが乱れだし、退水が続出する。これらのパワープレーのチャンスに、レフティーの13番島が右サイドから1点。また、ポイントゲッター3番石田が2点連続でゲットする。福工もパワープレーで3番古館が得点するものの、流れは由良育英へ。福工はこの流れを何とか取り戻そうとする焦りからか、残り22秒、攻守の要であるキャプテン谷川がマークを蹴り永久退水。由良は大切に13番島がゲットし、1点差に追いついて最終ピリオドでの逆転に賭ける。この永久退水がこの試合をどう左右することになるのか？

４P、このピリオドに賭ける由良の勢いは、カウンターとなって福工陣営に襲いかかる。由良は絶好のカウンターチャンスを作り、これで同点かと思われたとき、福工キーパーの鬼本がこの絶体絶命のピンチにファインセーブを見せ、逆カウンターを生み、6番大津が貴重な貴重なだめ押しの1点をとり、この試合の勝敗を決定づけた。

前半は福岡工業のペースで進んだ試合であったが、３Ｐの由良育英の猛反撃には目を見張るものがあった。主将の退場後、1点差に詰められ窮地に立たされた福工であったが、今大会6割以上のセーブ率を有するキーパー鬼本の活躍が最後の勝利を決定づけたといっても過言ではないだろう。カウンターが信条の福岡工業、3名のフローター･ドライバーをこなすオールラウンドプレーヤーを軸に戦う由良育英、実力の伯仲した3位決定戦にふさわしい好ゲームであった。

記　録　者	重枝武司

平成１５年度　全国高等学校総合体育大会
(第７１回　日本高等学校選手権水泳競技大会)
水球競技速報用紙

平成　15　年　8　月　20　日　　決勝戦 ｹﾞｰﾑ№ **20**

会場：長崎県：長崎西高等学校プール

帽子の色	白		青	帽子の色
	前橋商業高校 8	2 - 2 2 - 2 3 - 0 1 - 0 EX. - - P.T. -	山形工業高校 4	

天候：　晴れ

審判1：大川和二郎
審判2：牧田　和彦

戦　評

前商はここまで鹿児島南にＰＴ戦の末１１－１０、秀明英光に５－３、福岡工業に８－３で勝ち上がりここまで来た。２７回目のインターハイ出場で、過去6回の優勝回数は明大中野の9回に次ぐ2位であるが、ここ１３回は決勝戦に出ても勝てずにいること4回、もし勝つことができれば１４年ぶりの優勝となる。

山工はここまで富山北部に１１－８、埼玉栄に８－７、由良育英に１５－１０で勝ち上がった。１６回目のインターハイ参加実績、準優勝が1回という事で、今回勝つことができれば初優勝となる。

さあ、２００３年長崎ゆめ総体、水球競技決勝戦、”ゆめ”をかなえるのはどちらのチームだ！

前商は基本的にマンツーマンだが山工の強力フローター庄司をケアして状況によってドロップバックするディフェンススタイル。オフェンスはこれまでどおりの中村･柳瀬のフロータースイッチに志賀のドライブ。山工は、状況に対応しながらオーソドックスなスタイルで攻防する。先制したのは前商、パワープレー右サイドから中村がＧＫの手をはじいてねじ込む。山工もポイントゲッターの菅原（社）が左サイドからＧＫの脇下を抜くバウンドシュートで反撃。両チームともこの決勝に掛ける気合い十分で、パワーみなぎるプレーが続く。前商は中村のフロートで退水をもぎ取ると、ゴールも中村が1点目と同じ左サイドで決める。山工もすぐさまミドルシュートで応酬、菅原（剛）が右４５度からクロスをコーナーに決める。１ｐは前商の中勝負、山工のミドルシュートという様相で一歩も譲らない展開となる。やや山工のディフェンスが荒いところが気になるが、この後修正してくると思われる。

２ｐも同じ状況が続き、前商は柳瀬が右サイドからゴール前の中村にセンタリング、高いジャンプからワンタッチで決めると、山工も中島の鋭いカットインからのシュートで追いつく。しばらく攻防が続いた後、大事件が起こる。前商のセンターをコントロールしていた中村がターンオーバー時の危険行為で永久退水となり、いきなり大きなハンディを背負うことになった。しかし前商は2年生フローター柳瀬がゴール前フロートから得点し、志賀が攻めから守りへと泳ぎ回り大声で指示を出しながら獅子奮迅の働きでこのピンチをカバーする。それでもピリオド終了間際には、山工の菅原（大）が放ったミドルシュートがディフェンスの手でコースが変わりゴールし、同点で前半を折り返した。

ハーフタイムの指示をうけた後の前商は違っていた。「1点もやらない！」ということに集中した前商は、山工の攻めをことごとくうち砕く。柳瀬がまず得点して1点リードすると、退水のピンチは早いプレッシャーをかけ、山工：庄司の力強いシュートもポストをたたく。4'17"には相手退水チャンスに右上から柳瀬が決める。しばらくの激しい攻防の後、前商は残り45"に退水を奪ったところでＴＯしてこのパワープレーに集中すると、これを中沢が左サイドからＧＫの脇下を抜いてゲットする。山工は庄司にボールを集めてチャンスメイクしようとするが、前商センターバックの佐藤がエクスクルージョンすれすれの必死の守りでゴール前を死守する。山工得意のミドルもＧＫ小池とディフェンス陣のハンズアップが壁となってネットを揺らすことができない。この状況はゲーム終了まで続き、４ｐたてつづけに奪ったパワープレーチャンスも前商ＧＫ小池のセービングで阻止される。山工の追い上げパワーよりも前商の無失点集中パワーが上回っているのが見て取れる。1'46"には山工センターバックをになった中嶋が3回目で永退となると、前商はこれを渡邉が右サイドから決めて４点差とし勝利を決定づけた。山工はたまらず1'18"でＴＯし最後の望みを残り時間に託すが、山工のＴＯも逆に闘志を奮い立たせるエネルギーに変えるほど前商の集中力が上回っていた。

とにかく強かった前商、1戦1戦選手達の成長が感じられる。人間試練を乗り越えることで成長するのだとあらためて思い知らされる。　しかし、前橋商業の初代監督である田島正先生（現、全国高体連水球委員長）の定年引退の年に母校が優勝するというのは、何か大きな人と人のつながりを感じてしまう。

おめでとう前商！これ以上言葉はいらない。

記録者　南部　健